



障がいのある方も、ない方も
ともに活躍できる社会に向けて

北区議会議員 齊藤りえ

はじめに

皆様、はじめまして。
東京都北区で、
区議会議員をさせていただいております。
斉藤りえです。

今日は、貴重なお時間をいただきまして、
ありがとうございます。
簡単に自己紹介させていただきます。

はじめに

青森生まれで、今は東京の北区に、
5歳の娘と2人で仲良く、楽しく住んでいます。

津にお伺いするのは今回が初めてです。

北区では、まだ手話言語条例に関する議論は進んで
おりませんが、

今日このように、お声がけいただきまして、改めて感
謝いたします。

はじめに

さて、

私は耳が全く聞こえませんので、お話しすることはできますが、聞き取りにくいかもしれません。

そのため、今日は、このようにパワーポイントを字幕のように表示し、お話しさせていただきます。

それでは、よろしく申し上げます。

はじめに

まず始めに、私の所属している北区での、手話言語条例への取り組みについて、ご説明させていただきます。

区内にある当事者団体からは、過去数年、要望が出されています。

はじめに

議会では「手話言語条例」について議論されたことはありませんでした。

昨年の9月に、私が議会で提案したのが、初めてのことでした。

ただ、一昨年、国に対して、

「手話言語法」の制定を求める意見書の提出を行なっています。

はじめに

しかし、区で独自に手話言語条例を制定をすることは前向きな回答は見られませんでした。


これは、東京23区、全ての区でも同じですし、東京都としても、条例に関しては前向きには検討していません。

非常に残念に思います。

今後も、積極的に提案していこうと思っております。

はじめに

以上、簡単ではありますが、先に、北区での手話言語条例に対する現状の取り組みについて、ご説明させていただきました。

A person with dark hair, wearing a white shirt and a blue tie, is holding a large, blank, spiral-bound notebook. The notebook is held in front of their chest, and the spiral binding is visible at the top. The background is a bright blue sky with soft white clouds. The person's hands are visible, holding the edges of the notebook. The overall scene is clean and professional.

本日、お伝えしたいこと

本日お伝えしたいこと

今日は、
私のこれまでの半生をお話しさせていただくとともに、
半生を通して学ばせていただいたことを、
皆様にお伝えできればと思います。

本日お伝えしたいこと

その中で、皆様にお伝えさせていただきたいことは、細かい政策に関してではありません。

- ・ **障がいを持っていても、環境次第で活躍できる**
- ・ **障がいの有無で分ける必要はない**

という、2つのメッセージです。

本日お伝えしたいこと

そして、そのためには、

周りの方の温かい理解や、応援

が前提として、大事だということも、
皆様に知っていただければ幸いです。

本日お伝えしたいこと

健常者の方から見ると

「障がいがあって、大変ね！」

「障がい者になってしまっって、かわいそうに」

と思われる方もいらっしゃると思いますが、健常者の方も、十人十色であるように、


背が高い人、低い人、肌の色も、それぞれ違うように、
耳が聞こえない人、目が見えない人もいるわけですし、
障がいがある方も、人それぞれです。

本日お伝えしたいこと

私の周りの障がいがある人は、障がいを、
自分の個性として、武器にしてしまうほど、生命力
溢れるほどエネルギッシュな方ばかり。

障がいならではの魅力や良き面を上手に引き出して
いる方ばかりなのです。

一緒にいるととても、嬉しくなり私まで前向きに更
にポジティブになれるのです。

A person with dark hair, wearing a white shirt and a blue tie, is holding a large, blank, spiral-bound notebook. The notebook is held in front of their chest, and the text is written on the page. The background is a bright blue sky with white clouds, and a strip of green grass is visible at the bottom of the frame.

障がいについて

障がいについて

突然ですが、
日本には障がい者が人口の何%いるか、ご存知
でしょうか？

1% ・ 3% ・ 5% ・ 10%

この4つの中から手を上げてみてください。

障がいについて

ここにいらっしゃる皆様は、すでに詳しいでしょうから、釈迦に説法となり恐縮です。

ただ、意外とこのことを知らない方が多いのです。

障がいについて

では、まず、

- ・ 1%だと思おう方。
- ・ 次に3%だと思おう方。
- ・ 次に5%だと思おう方。
- ・ 最後に10%だと思おう方。

ありがとうございます。



障がいについて

実は、**5%ほど**だと言われています。

障がいについて

私のような体に障がいのある「**身体障がい者**」
そして「**知的障がい者**」と「**精神障がい者**」を
含めると、20人に1人、人口の5%ほどいらっ
しゃいます。

ですので、**例えばこの中にも、障がいをお持ち
の方がいたとしても、自然なことですね。**

障がいについて

しかし、障がいがお有りの方が、社会の表に立ってご活躍する姿をお見かけする機会はまだまだ少ないでしょう。

例えば、私のような政治家は、全国に3万5,000人程いますが、障がい当事者である議員はほとんどいません。

障がいについて

一方で、もちろん、障がいを持っている当事者である議員は、決して私だけではありません。


同じ耳が聞こえない「聴覚障がい」では、2001年に長野県の白馬村で、桜井 清枝（すみえ）さんが村議を務められておりました。

桜井元村議は手話話者ですので、議会での活動には、手話通訳者がついておりました。

障がいについて

他にも、障がいがお有りの方が政治家としてご活躍された事例は、何名もいらっしゃいます。

やはり、障がいがお有りの当事者の方が政治家になり、内側から変えていくことの必要性も、感じております。

A person with dark hair, wearing a white lab coat, is holding a large, blank sheet of paper. The paper is held up in front of a light blue background with a white spiral binding at the top. The person's hands are visible at the top and bottom edges of the paper. The Japanese text '聴覚障がいについて' is centered on the paper.

聴覚障がいについて

聴覚障がいについて

さて、まずは私自身の障がいに関して、簡単にお話しさせていただきます。

私は1歳10ヶ月のときに、髄膜炎にかかり高熱が出たことがきっかけで、聴力を完全に失いました。



聴覚障がいについて

幼いときに聴力を失いましたので、「音の記憶」は全くありません。

音の概念自体がないので、音が高い、低いなどということ、一体どんな違いなのかも分かりません。

聴覚障がいについて

一方で、「音の無い生活」が当たり前ですので、障がいを自然に受け止めることができました。

ある程度年を取ってから聞こえなくなる「中途失聴」の方は、「できていたことができなくなる」という不便さや、自信を失ってしまうことも多いようです。

同じ「聴覚障がい」といっても、「先天性」なのか「中途」なのかによっても、大きな差があります。

聴覚障がいについて

両親の身近に、聴覚障がいがお有りの方がいませんでしたので、何もかもが、両親にとっては未知な世界だったようです。

とにかく

**「障がいがあっても人に迷惑かけず、
1人でも生きていける子供に育てる」**

を目標に頑張ろうという気持ちに毎日が必死だったの
でしょう。

その後は、熱心に教育環境を整えてくれました。

聴覚障がいについて

私は、小学校に上る前は、

- ・ろう学校の幼稚部
- ・保育園
- ・幼稚園

と、

日替わりで3つ通っていました。



聴覚障がいについて

「聴覚障がい者」だと言うと、恐らく多くの方が「**手話**」で会話していると思っているでしょう。

しかし、ろう学校で手話を教え始めたのはごく最近のことで、昔は手話が禁止の学校がありましたし、**学校によっては手話を教えない学校もあります。**

聴覚障がいについて

特定の音が聞き取りにくい「**難聴**」の方や、
年配になって耳が聞こえにくくなった方も含めると、
聴覚障がい者の中で手話ができるのは、
たった14%程度だというデータもあります。

聴覚障がいについて

先ほど、「先天性」と「中途失聴」に大きな差がある、というお話しをしましたが、コミュニケーションの方法にも大きな差があります。

先天性の方は手話を中心にお話しされていますが、中途失聴の方は手話を習う機会を得られない場合もあります。

聴覚障がいについて

私の通っていた学校では、手話は教えていませんでしたので、私は手話の代わりに、「口話法」（こうわほう）という方法で会話をしています。

これは、皆さんの口の動きから、言葉を読み取るものです。

ゆっくり、大きく、口を動かしていただければ読み取ることができます。

「手話」と「口話」で文化も違う…

ということで、私はこれまで「口話法」を中心としてきましたが、昨年より、手話の勉強もしております。

聴覚障がいについて

話し方は、幼少期、母が鏡の前で熱心に教えてくれました。

口の動き、舌の動き、空気の動き。

手作りの絵日記なども使い、言葉を教えてくれました。



聴覚障がいについて

手話が苦手な聴覚障がいがお有りの方がいることに、
驚かれた方もいるでしょう。

さらに、「手話」というのは、
多くの方は「コミュニケーション手段」だと思っ
ているのではないのでしょうか？

日本語を話す代わりに、手で表す。

聴覚障がいについて

これは実は**大きな間違い**で、日本語とも似ているのですが、**手話は、独自の言語**なのです。

ですので、日本語と文法も違いますし、日本語にはない単語もあります。

聴覚障がいについて

手話を使われる方は「日本語」と「日本手話」という2つの言語を使っているのです。

そのため、言葉を獲得する幼少期に、相応しい手話教育を受けられないと、手話を完璧に覚えることはできません。